



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月12日

上場会社名 ダイコク電機株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 6430 URL <https://www.daikoku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大上 誠一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括部長 (氏名) 栢森 啓 (TEL) 052-581-7111
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	11,060	△40.7	△224	—	△18	—	△48	—
2020年3月期第2四半期	18,643	31.0	1,302	49.3	1,421	41.4	912	43.1

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △39百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 911百万円(47.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△3.30	—
2020年3月期第2四半期	61.71	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	40,285	29,923	74.3
2020年3月期	42,702	30,406	71.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 29,923百万円 2020年3月期 30,406百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	10.00	—	30.00	40.00
2021年3月期	—	10.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	30.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	△15.0	400	△72.1	500	△70.1	300	△71.7	20.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	14,783,900株	2020年3月期	14,783,900株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	868株	2020年3月期	868株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	14,783,032株	2020年3月期2Q	14,783,054株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関しては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により国内外の経済活動は停滞し、景気は大幅に悪化しました。緊急事態宣言解除後には政府の経済対策効果もあり、個人消費に一部持ち直しの動きがみられるものの、同感染症拡大の懸念から景気回復の足取りは鈍く、極めて厳しい状況が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきまして、2020年9月度におけるパチンコホールの稼働状況は、前年同月比約80%（当社「DK-S I S」データ比較）まで回復しましたが、緊急事態宣言解除後より継続しておりました回復基調も踊り場に差し掛かった感があり、ファン（遊技客）の回帰傾向は鈍化しております。

パチンコホールにおける新規遊技機の置換状況について、旧規則遊技機の撤去期限が一部延長されたこともあり、パチンコホール経営企業におきましては、新規遊技機への置換に慎重な姿勢が継続しております。しかしながら、2020年1月に施行された「技術上の規格解釈基準」の改正、それに伴う日本遊技機工業組合の内規制定によって新しい遊技性（「遊タイム」等）を有した遊技機が徐々に市場に導入され、高稼働のパチンコ遊技機も出始めていることから、今後の遊技機入替需要の活性化が期待されております。

このような市場環境のもと、情報システム事業におきましては、昨年6月にリリースした新製品A I ホールコンピュータ「X（カイ）」の提案を行い、既存ホールコンピュータ「C II」からのシステムアップによる入替を推進いたしました。

7月には今年で17年目を迎えた「DK-S I S 白書」2020年版（2019年データ）発刊の記者発表会を実施いたしました。本書はパチンコホールから日々送信される約147万台の営業データを集計し分析したもので、年間の分析結果を掲載し、業界関係者の皆さまには将来を見通す上での指標としてご活用いただいております。

また、業界初となるオンライン形式の「MIRA I G A T E 2 0 2 0 W e b 展示会&セミナー」を開催し、例年の2倍以上となるパチンコホール経営企業の皆さまにご参加いただきました。セミナーでは「遊タイム」搭載パチンコ遊技機の最適なデータ表示や、ファンに安心感を提供する新型コロナウイルス感染症対策など、業績向上につながる改善策を提案いたしました。

制御システム事業におきましては、パチスロ遊技機の受託開発や販売製品の事業領域を拡大する活動を推進するとともに、表示ユニットの低コスト化に向けた技術及び部品の調査研究に努めました。当事業の顧客である遊技機メーカーでは、休業や在宅勤務等の新型コロナウイルス感染症への対策は徐々に緩和され、「遊タイム」等の新しい遊技性を有したパチンコ遊技機の開発が本格化しました。この動きに合わせ、当事業におきましても販売スケジュールへの影響を最小限に抑えるべく、リソースの再分配や工程の見直し等に積極的に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高110億60百万円（前年同期比40.7%減）、営業損失2億24百万円（前年同期は営業利益13億2百万円）、経常損失18百万円（前年同期は経常利益14億21百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失48百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益9億12百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(情報システム事業)

当事業の第2四半期連結累計期間は、コロナ禍のなか、長期間となった休業要請や深刻化するファン離れなど、パチンコホール経営企業を取り巻く環境は一変し、設備投資意欲は極端に低下しました。また、旧規則遊技機の撤去期限の一部が延長されたことにより、設備投資のタイミングが先延ばしとなるなど、極めて厳しい市場環境となりました。このような市場環境の下、当事業ではオンライン形式の展示会&セミナーの開催や、モバイル活用、その他経費の削減に努めたことから、セグメント利益は期初予想を大幅に上回ることができました。

この結果、当事業の売上高は82億6百万円（前年同期比45.0%減）、セグメント利益は5億40百万円（同76.6%減）となりました。

(制御システム事業)

当事業の第2四半期連結累計期間は、パチンコホールで新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために休業や時短営業が行われた影響により、各遊技機メーカーにおきましては新作タイトルの販売は延期され、市場全体のパチンコ遊技機販売台数は大きく減少しました。当事業におきましても表示ユニット、制御ユニット、部品販売ともに前年同期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は28億58百万円（前年同期比23.8%減）、セグメント損失は5百万円（前期セグメント損失66百万円）となりました。

(注) セグメントの業績の金額には、セグメント間取引が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結累計期間末の総資産は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言解除後も、従前のような営業活動が行えなかったことにより、売掛金などの営業債権が大幅に減少しました。また、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な点を踏まえ、設備投資などの計画を見直し、減価償却費の計上が大きかったことなどによる有形固定資産及び無形固定資産が減少したことにより、前連結会計年度末に比べ24億16百万円減少の402億85百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間末の負債は、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な点を踏まえ、仕入計画や開発計画の見直しなどにより仕入債務や未払金が減少したことにより、前連結会計年度末に比べ19億34百万円減少の103億62百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間末の純資産は、期末配当金の支払いなどにより、前連結会計年度末に比べ4億82百万円減少の299億23百万円となりました。自己資本比率は74.3%（前連結会計年度末比3.1ポイント上昇）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は期初予想の通りに推移いたしましたが、オンライン展示会&セミナーの開催やモバイル活用、その他経費の削減に努めた結果、利益は期初予想よりも大幅に改善いたしました。

当社が携わるパチンコ業界では、新型コロナウイルス感染症拡大防止による自主休業から、5月中旬には徐々に営業再開となり、9月度のパチンコホール稼動状況では前年同月比約80%まで回復しましたが、回復基調も踊り場に差し掛かった感があり、ファンの回帰傾向は鈍化しております。第3四半期以降も新型コロナウイルス感染症拡大の懸念が依然として続いており、現時点で終息時期の見通しは立っておらず、今後の当社グループの業績に与える影響は不透明な面があります。

これらの状況により、2021年3月期の通期連結業績予想につきましては、2020年5月21日に発表いたしました数値から修正は行っておりません。今後の業界動向を踏まえ、業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,478,001	15,060,152
受取手形及び売掛金	4,026,639	3,131,955
電子記録債権	1,568,880	1,149,910
商品及び製品	3,713,475	3,876,972
仕掛品	30,500	24,909
原材料及び貯蔵品	542,786	499,388
その他	889,126	727,718
貸倒引当金	△1,952	△2,380
流動資産合計	26,247,459	24,468,627
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,824,816	3,719,819
土地	4,162,117	4,162,117
その他（純額）	1,080,602	932,121
有形固定資産合計	9,067,536	8,814,057
無形固定資産		
ソフトウェア	3,525,678	3,126,072
その他	34,613	34,329
無形固定資産合計	3,560,292	3,160,402
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,133,989	1,132,591
投資不動産（純額）	901,876	896,287
その他	1,939,260	1,964,978
貸倒引当金	△147,823	△151,222
投資その他の資産合計	3,827,303	3,842,635
固定資産合計	16,455,133	15,817,095
資産合計	42,702,592	40,285,723

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,200,429	2,024,074
電子記録債務	2,275,277	1,908,968
短期借入金	3,000,000	3,000,000
1年内返済予定の長期借入金	300,000	300,000
未払法人税等	406,250	40,570
役員賞与引当金	62,558	36,000
製品保証引当金	40,410	34,679
株主優待引当金	42,363	40,415
その他	2,821,215	1,804,940
流動負債合計	11,148,504	9,189,648
固定負債		
役員退職慰労引当金	376,043	390,068
退職給付に係る負債	498,805	509,006
その他	272,972	273,419
固定負債合計	1,147,821	1,172,494
負債合計	12,296,326	10,362,143
純資産の部		
株主資本		
資本金	674,000	674,000
資本剰余金	680,008	680,008
利益剰余金	29,158,920	28,666,598
自己株式	△1,648	△1,648
株主資本合計	30,511,280	30,018,958
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,167	9,614
退職給付に係る調整累計額	△119,182	△104,993
その他の包括利益累計額合計	△105,015	△95,378
純資産合計	30,406,265	29,923,579
負債純資産合計	42,702,592	40,285,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	18,643,040	11,060,732
売上原価	11,960,129	6,728,317
売上総利益	6,682,911	4,332,415
販売費及び一般管理費	5,379,932	4,556,640
営業利益又は営業損失(△)	1,302,978	△224,224
営業外収益		
受取利息	15	19
受取配当金	8,564	8,550
雇用調整助成金	—	98,895
その他	139,023	125,426
営業外収益合計	147,602	232,890
営業外費用		
支払利息	5,770	5,793
不動産賃貸費用	23,152	20,008
その他	230	956
営業外費用合計	29,153	26,757
経常利益又は経常損失(△)	1,421,428	△18,091
特別利益		
固定資産売却益	596	653
特別利益合計	596	653
特別損失		
固定資産除却損	9,424	4,569
減損損失	7,539	—
その他	2,138	—
特別損失合計	19,103	4,569
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,402,922	△22,007
法人税、住民税及び事業税	387,469	29,674
法人税等調整額	103,210	△2,850
法人税等合計	490,679	26,824
四半期純利益又は四半期純損失(△)	912,242	△48,831
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	912,242	△48,831

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	912,242	△48,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,808	△4,553
退職給付に係る調整額	14,455	14,189
その他の包括利益合計	△352	9,636
四半期包括利益	911,889	△39,195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	911,889	△39,195

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	情報システム事業	制御システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,908,377	3,734,663	18,643,040	—	18,643,040
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	15,450	15,450	△15,450	—
計	14,908,377	3,750,113	18,658,490	△15,450	18,643,040
セグメント利益又は損失(△)	2,309,350	△66,018	2,243,332	△940,353	1,302,978

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△940,353千円には、セグメント間取引消去4,248千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△944,602千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「制御システム事業」セグメントにおいて、連結子会社の有する事業用資産について、今後のキャッシュ・フローの回収可能性を鑑みて、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、7,539千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	情報システム事業	制御システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,206,202	2,854,530	11,060,732	—	11,060,732
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	4,120	4,120	△4,120	—
計	8,206,202	2,858,650	11,064,852	△4,120	11,060,732
セグメント利益又は損失(△)	540,356	△5,277	535,078	△759,303	△224,224

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△759,303千円には、セグメント間取引消去5,606千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△764,909千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。